

内壁用塗り壁材

ピアコート施工要領書

Opus

株式会社オーパス

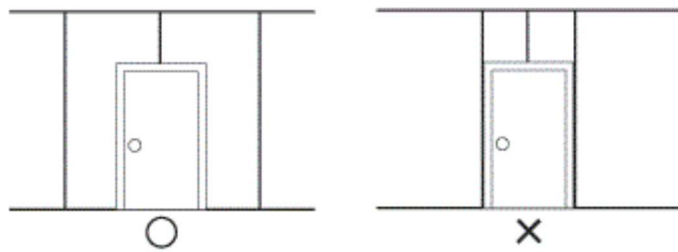
2025/10 改訂

1. 適合下地について

ピアコートは、石膏ボード下地に直接塗れるように開発された製品です。
合板、ベニヤ、構造用下地材、プラスチック等他の下地材への直接の施工は不適です。また、Mクロス(紙付ベニヤ)は塗装後、紙にシワが発生し、仕上げ面にも影響を与えますので使用しないでください。
マニュアルをよく読んで施工してください。

2. 石膏ボードの張り方（JASS15左官工事2.9に準拠する）

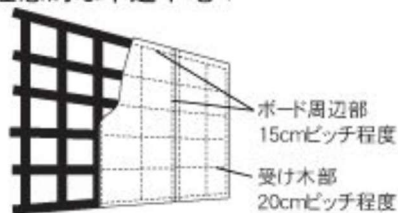
- 1) 石膏ボードはすき間の無いように貼り込んで下さい。
- 2) 石膏ボードは3尺×8尺あるいは3尺×9尺サイズを使い10㍻～15㍻ピッチでビス止めをしてください。横目地が少なくなるのでクラック防止になります。
- 3) ドア、窓枠の縦枠に沿って、ボードのジョイント部分が来ない様にしてください。開け閉めの衝撃でクラックが入りやすくなります。



ジョイント部がドア枠や窓枠の延長線上に来ないように

- 4) 石膏ボードのジョイントは必ず木下地の場所でビス止めしてください。
*PBのジョイントを木工用ボンドで貼るとより強化な下地となります。

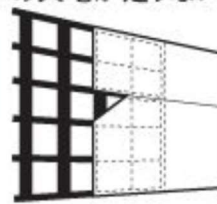
理想的な木造下地▼



横受木が無い場合▼



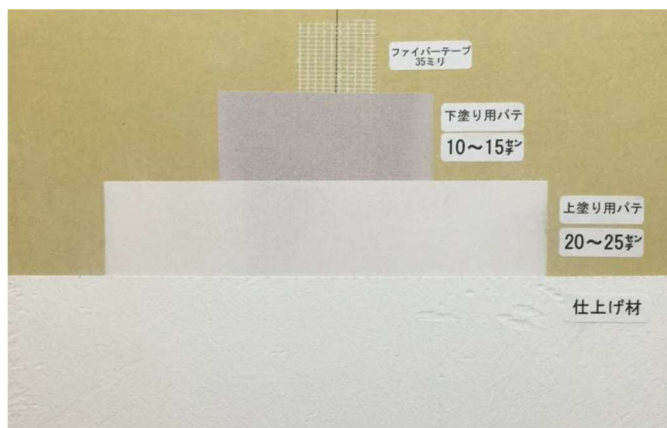
ボードの天地が足りない場合▼



3. 石膏ボード下地処理 その他下地は後記5～8を参照してください。

※塗り壁専用パテ 下塗り用／上塗り用 をご使用ください。
【下塗り用】ヤセが少なく細粒。厚付性能と作業性を両立。
【上塗り用】超細粒。パテのつながが出にくい塗り壁用パテ。
硬く感じる場合は2%程加水すると塗りやすくなります。

- 1) プラスターボードは**平ボード**をご使用ください。工程が簡略化できます。
Vカットジョイント部を「下塗り用」パテで埋めてください。
- 2) 乾燥後ジョイント部分を35ミファイバーテープで補強します。
出隅・入隅は50ミファイバーテープで巻き込んでください。
- 3) ファイバーテープを覆い隠すよう「下塗り用」パテで**10㌘～15㌘**幅で1回目のパテ処理をし、**十分乾燥**させます。この際パテをすり切り過ぎると痩せの原因になります。ビス頭も「下塗り用」パテにて処理してください。
- 4) 乾燥後「上塗り用」パテにて**20㌘～25㌘**幅で2回目のパテ処理をし、**十分乾燥**させます。この際パテをすり切り過ぎると痩せの原因になります。ビス頭も「上塗り用」パテにて処理してください。



注) 画像は平ボードの場合です。
Vカット使用時はジョイント部を「下塗り用」パテで埋めてください。

※パテ処理でやせた部分やテープの透けがない状態にしてください。

※パテが十分乾燥していない状態で次の工程へ進みますとパテの硬化不良の原因となりますのでご注意ください。

※出隅にプラスチックのコーナー材を使用した場合はその上に接着増強剤（シーラーなど）を塗布してください。

※出隅でPBの切小口が出ている場合や、面取りで石膏部が露出している箇所は**接着増強材（シーラーなど）を塗布し**粉っぽさを抑えてからファイバーテープとパテ処理をしてください。

4. ピアコートの仕上げ施工

◎まずはマスキングと養生をしっかりと行いましょう！

マスキングテープにて窓枠、ドア枠、廻り縁等に1～2ミリ程すき間を作りマスキングします。すき間は塗り厚（テクスチャーや施工方法）によって調整して下さい。汚れ防止の養生もしっかり行って下さい。

A. コテ塗り仕上げの場合

*ピアコート 1 缶（22kg）に精製水 600cc～1 ℓ 程度加え、かくはん機で3分以上よく混ぜ合わせて下さい。材料がソフトクリーム状になったら準備完了です。季節気温や施工業者様のお好みで加水量を調整して下さい。ハーフサイズ（11kg）の加水量は上記の半分になります。

*カラーボトルは液体の水性顔料です。ご使用の際はボトル底に顔料が沈殿しておりますのでよく振ってから材料に入れ、ボトル内がきれいになるまで精製水でよくすすぎ顔料を全て材料に入れてください。カラーボトルの顔料＋精製水＝加水量となるようご注意ください。かくはん機で3分～5分十分に混ぜ合わせて下さい。材料がソフトクリーム状になったら準備完了です。

*ステンレス製の仕上げコテ（0.3 ミリ程）で施工して下さい。

*コテ板に必要量を取り塗り厚1 ミリ～2 ミリ程度で均一に塗りつけます。3 ミリ以上の厚塗りは細かなクラックの原因となります。厚塗りの際は薄塗りを2 回に分けて施工して下さい。

*1 m²～2 m²塗りつけ後、コテにてパターンを付けます。

★ウェーブまたはランダムパターンは施工性が良く1 度で完了します。

1 回塗りの塗りっぱなし はオーパス推奨パターンです。

★フラット仕上げの場合は、加水量を増やした柔らかめの材料で薄く2 回塗りして下さい。1 回目の塗り付け後、半乾き状態でコテ跡を押えた後、2 回目も薄く塗り付けして下さい。

★はけ引きは1 回引くごとに刷毛に付いた材料を落として引いて下さい。

★マーブル仕上げは2 色以上の材料を用いて大理石のタイルの様な多色が入り混じった模様を作ります。

*仕上げ塗りが終わったら、乾燥前にマスキングテープを取ってください。マスキングテープを取った際、材料が起きてしまった箇所は、コテ先や十分水分を含んだ細筆などで押さえてください。

【注意】ビニールクロスやコンパネ下地の際、塗りつけ時に気泡が出ることがあります。気泡が出た時は直ぐにコテで気泡をつぶす様にして下さい。
2～3度繰り返すと気泡は消えます。その後パターン付けをして下さい。

B. 吹き付け仕上げの場合

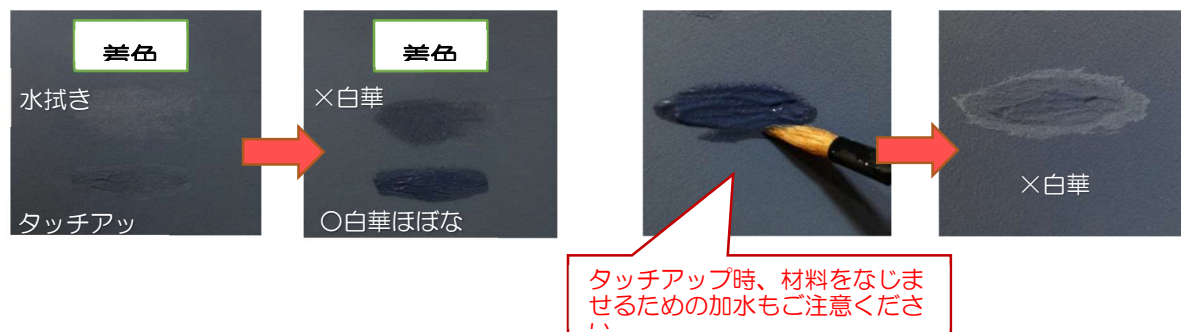
- * コテ塗りより多めの水を加え攪拌してください（2 盥～3 盥）
- * スプレーガン、リシガン 4.5 ミリ～5.5 ミリを使い2度吹きが標準です。
- * 1 回目の吹き付けと2 回目吹き付けの間隔を最低 2 時間以上おいて下さい。

C. ローラー仕上げの場合

- * コテ塗りより多めの水を加えて攪拌してください（1.5 盥～2 盥）
- * ローラーが滑らず回転するようにゆっくり塗りつけてください。
- * 2 回～3 回施工が標準です。

★補修について

- * 汚れなどは、プラスチック消しゴムでこすってください。
- * 濡れた布やサンドペーパーなどで擦ると骨材が研磨されキラキラとした光沢と粉っぽさが出ますのでご注意ください。また、カラーご使用時は白華の原因となりますので、部分補修は水を使わず同色材にてタッチアップのみとしてください。



5. 合板、ベニア、構造用下地 等の下地処理

- 1) 石膏ボード同様ジョイント部にファイバーテープで補強しパテ処理をして下さい。（3. 石膏ボード下地処理参照）
 - 2) 灰汁（アク）止めシーラーを塗布します。
- * シーラーの用法用量を守って正しくご使用ください。塗膜が不十分の場合、コンパネ小口が水分を含み小口膨張やクラックの原因となります。
 - * 構造用下地（タイガーグラスロック）も版面印字顔料シミ出し防止の為、灰汁止めシーラー塗布してください。
 - * 特殊な色付きの石膏ボード（ハイクリーンボードなど）は仕上りに色ムラがでる場合があるので事前に灰汁止めシーラー処理をするか下擦りをして通常より厚塗りにする。

6. コンクリート・モルタル下地処理

- 1) 下地の不陸調整と、灰汁止めシーラーを塗布します。
- 2) 状況によっては下塗り材にて全面塗り処理します。

7. 既存ビニールクロスのリフォーム

既存のビニールクロスは剥がさずその上からピアコートを施工してください。ビニールクロスを剥がした後の残る裏紙は、湿式材の水分を吸収し裏紙自体の浮きの原因となります。ビニールクロスを剥がす際は裏紙もきれいに取りのぞいてください。

●クロスが比較的きれいな場合

- 1) クロスの汚れを取り除いて下さい。
 - 2) クロスの繋ぎ目、除去部、下地が割れている箇所はファイバーテープで補強しパテ処理をして下さい。（3. 石膏ボード下地処理参照）
 - 3) パテが完全に乾いたらピアコートを塗り付けます。
クロスの凹凸が大きい場合は、ピアコートをこする様に塗り付け（不陸調整）を行い、半乾きの状態で仕上げ材を塗ってください。
- ※仕上げ材施工の際、気泡が出る場合は下こすりした箇所を霧吹きで水分を与えてから施工すると気泡が出にくくなります。

●クロスがタバコのヤニ汚れや劣化が激しい場合

- 1) クロスの繋ぎ目、除去部、下地が割れている箇所はファイバーテープで補強しパテ処理をして下さい。（3. 石膏ボード下地処理参照）
 - 2) 灰汁止めシーラーを全面に塗布します。
 - 3) シーラーが完全に乾いたらピアコートを塗り付けます。
クロスの凹凸が大きい場合は、ピアコートをこする様に塗り付け（不陸調整）を行い、半乾きの状態で仕上げ材を塗ってください。
- ※仕上げ材施工の際、気泡が出る場合は下こすりした箇所を霧吹きで水分を与えてから施工すると気泡が出にくくなります。

●その他

- * 紙クロス、布クロスは湿式材の水分を吸収し既存クロス自体の浮きの原因となります。この場合は灰汁止めシーラーなどで塗膜を形成し、水分を吸収しない下地にしてください。
- * マンション等、コンクリートにクロスを直貼りしている場合は、ピアコート施工後に剥がれや浮きが起きやすいのでクロスを剥がし、コンクリート・モルタル下地処理後ピアコートを施工して下さい。
（6.コンクリート・モルタル下地参照）

8. 既存左官壁のリフォーム

- 1) 浸透性下地強化剤で古壁を固めて下さい。
- 2) ボロボロと崩れる古壁の場合は、下塗りパテで不陸を調整して下さい。
- 3) 灰汁止めシーラーを塗布してください。

※真壁の場合、新規石膏ボードを上から貼る施工方法もございます。

9. 使用上の注意

- ・目に入った場合、直ちに水で15分以上洗い流し、異常がある場合は医師の診断を受けて下さい。
- ・この製品には、物理的及び化学的危険性はありません。
- ・状況により保護マスク、保護眼鏡、保護手袋等を着用して下さい。
- ・廃棄は容器も含めその地方の廃棄物処理に適した方法で行って下さい。
- ・保存料を使用していない為、加水後は早めにご使用下さい。開封後は蓋をしっかりと閉めて空気が入らないようにしてください。
- ・発注ごとの使い切りを原則としストックはしないで下さい。
- ・Mクロス(紙付ベニヤ)は塗装後、紙にシワが発生し、仕上がり面にも影響を与えますので使用しないでください。
- ・UPパテ(吉野石膏)、ジョイントセメント(ニッター)はアルカリ性との相性が悪く、剥離などの原因となりますので使用しないでください。
- ・施工は摂氏5度以上の環境で行ってください。

10. 下地処理材 推奨品

下記の商品を下地処理材として推奨しています。

処理材	商品名	サイズ・容量等
ファイバーテープ	ブリッジテープ	35/50 ^{mm} @0.12 ^{mm}
下塗り用パテ	塗り壁専用パテ 下塗り用	7 ^{kg} 75m ² 1回塗り
上塗り用パテ	塗り壁専用パテ 上塗り用	10 ^{kg} 100m ² 1回塗り
灰汁止めシーラー	ハイポリックシーラー	4 ^{kg} 40m ² 2回塗り

- ・パテは弊社指定の物をお使い下さい。

★ご注文・問い合わせなどはこちら

株式会社オーパス

〒461-0001

名古屋市東区泉 1-16-7 K21 ビル 4F

TEL : 052-212-8777 (代表)

FAX : 052-212-8778